

一本松まちづくりひろば

発行：一本松まちづくり協議会

発行責任者 斉藤 明

防災まちづくり

先進事例見学会実施

新年あけましておめでとうございます。

昨年中は会員皆様から多大なご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。本年もなにとぞよろしくお願い申し上げます。

去る12月4日(木)、一本松まちづくり協議会として、事例見学会を実施いたしました。見学会場所は、東京都台東区の防災広場(2箇所)です。

晴天に恵まれ、総勢31名(行政・NPO・まちづくり委員)が最初に訪れたところは、根岸地区防災広場「根岸の里」(台東区根岸3-12)です。

ここは病院跡地(3,800㎡)を、台東区と根岸まちづくり協議会の協働で、平成14年から数年間かけて整備された広場です。

広場には、震災用深井戸、防火貯水槽(100t)、かまどベンチ、防災トイレ、流し台等の施設が設置され、災害時の一時避難場所として利用され、平常時は住民交流の広場として、また子供の遊び場として解放されます。



「根岸の里」で施設の説明を聞く

広場内のかまどベンチ

「根岸の里」入口



その次に訪ねたところは、谷中五丁目の防災広場「初音の森」(約7,000㎡)です。ここも地域住民と行政の協働により、数年間かけて防災広場として整備されました。

一面草地の広大な広場には、深井戸、地下防火水槽(100t×2)、災害用トイレ、かまどベンチ、ソーラー照明灯、防災備蓄庫等が設置され、また斜面も緑地帯として保存されており、自然と調和が取れた防災広場になっています。

(裏面につづく)



入口から見た「初音の森」



「初音の森」のかまどベンチ



災害用マンホールトイレ

以上2箇所の防災広場は、西戸部地区とは比較にならないほどの面積と充実した防災機能を備えた広場でした。

◆見学会に参加された方々からいただいたアンケートの中から一部を、ご紹介いたします。

【防災広場(根岸の里)について】

◎現地に着いたときには、さほど広いと感じなかったが、広場を歩くと、災害時の炊き出し、生活用水、トイレ、電気(ソーラー)等が整備され、宿泊テントが管理棟に備蓄されているのは、避難人数にもよるが、一時的な避難場所には活用出来ると思う。

◎元病院跡地と向ったが、防災用トイレ、ソーラー照明、貯水タンク等、下町の中で広場の有効利用にうらやましく思う。公園設置の成功例として拝見した。

【防災広場(初音の森)について】

◎広大なまま残され、利用価値を高めている気がする。背後の緑地は災害避難民の気持を癒し、数多く並んだマンホールトイレは、避難民に安心感を与えてくれると感じた。深井戸の水、芝地は災害時に色々な利用方法が考えられる、うらやましい限り。

◎いつ起こるか判らない地震に對して、災害時にいかに早急な対応が出来るかを、東京都を先頭に区役所、町内会が一体となって、人命の救助に向かって被害を最小限に食い止める活動をしている地域だと思った。

【今回のイベントや協議会の活動などについて】

◎今回の見学会は参考になったが、私たちの地域の防災広場建設活動には行政の援助が特に必要と考えます。羽沢西部としては、国土交通省の宿舎跡地を防災広場として確保したい。

◎西戸部二丁目公園に「かまどベンチ」の設置はプランとして入っているが、防災用トイレについても当地区に即した整備内容を進めてはどうか。

一本松まちづくり協議会 本年度の取組みとして、

- ①「三二防災広場」の充実
西戸部一丁目内 三角地整備、西戸部二丁目公園内 かまどベンチの設置
- ②災害時の水の確保
既存井戸の補強整備(ポンプ設置)、雨水貯留タンクの設置

以上のプランを進めます。この活動に対する横浜市地域まちづくり支援制度に定める助成金交付を横浜市に申請する予定です。

プランの実現化を図るため、地域の皆様のご理解とご協力をどうかよろしくお願い申し上げます。